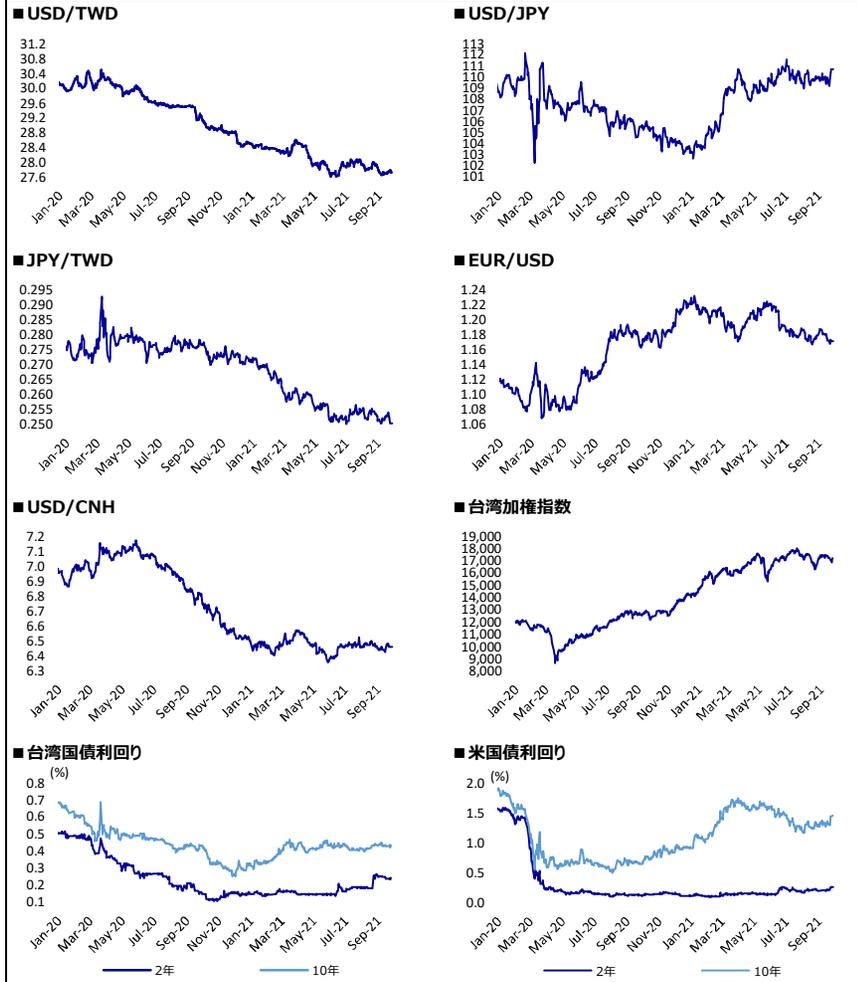


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD
先週のドル/台湾ドルは下落。週初9/22は中秋節の連休明けであったが、中秋節の間に中国市場での信用不安が高まり、27.770とギャップアップしてオープン。台湾加権指数も大幅下落し17,000ポイントを下回る中、台湾ドル売りが優勢で一時27.815まで上昇したものの、27.8を超えると輸出企業のドル売りも入り、上値は押さえられ、27.78付近で推移。9/23も海外への送金が増え、一時27.8台に乗せたが、輸出企業のドル売りから、27.8台の滞空時間は短く27.77付近で推移。9/24は中国の不動産大手企業のデフォルトへの警戒が和らいだことで台湾株が反発する中、27.72付近まで下落。台湾ドル高が進行したことから輸出企業のドル売りが加速すると、一時27.688に。最終的には先週比0.1%ドル安台湾ドル高の27.731で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は240.6億台湾ドル。

■ USD/JPY
先週のドル/円は上昇。週初9/20は109.99でオープン後、日本等アジア諸国が休場日の中で、中国不動産大手企業のデフォルト懸念を背景にリスク回避の動きが強まり、109円台前半までじり安の展開に。9/21も引き続き、中国市場の信用不安が残るものの、実需のフローから109円台後半を回復したが、米株式市場を背景に109円台前半まで下落。9/22は前日の流れを受け、一時109.12まで下落したがFOMCを控え調整が入り、109円台半ばのレンジで推移。FOMCでは、ドットチャートで中央値で2022年中の利上げ開始に前倒しされ、パウエルFRB議長の会見では今の経済環境が続けば、11月の緩和縮小する方向を示した。これを受けてドル円は109円台後半まで上昇。9/23はFOMCの結果を受けたドル買い地合いが継続し、中国の不動産大手企業のデフォルトへの警戒が和らいだことで米株が堅調に推移し、ドル円は110円台前半まで上昇。9/24はFED高官からのタカ派なコメントが相次いだため、米金利が上昇するのにつれてドル円は一時110.79まで上昇。最終的に先週比0.7%ドル高円安の110.74で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ：27.570-27.820
先週は中国不動産大手の信用不安が落ち着いており、また、タカ派なFOMC以降、FED高官のタカ派なコメントも相次いでおり、米長期金利が上昇しているが、今週は月末であり、輸出企業のドル売りが強まると見込まれ、上値は重い展開となるであろう。

■ USD/JPY 予想レンジ：108.80-111.20
先週のFOMC以降、米長期金利が上昇しており、ドル円もじりじりと上昇している。中国市場での信用不安は一旦和らいでおり、リスクオフの流れは後退しており、上値を探る展開となるであろう。

今週の予定

9/27 (MON)	台湾8月鉱工業生産、米8月耐久財受注
9/28 (TUE)	米9月消費者信頼感指数
9/29 (WED)	日本自民党総裁選
9/30 (THU)	米2Q GDP確報、米2QコアPCEデフレーター
10/1 (FRI)	米9月ISM製造業、米9月ミシガン大消費者信頼感指数

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。